

歯・顎・口腔系の疾患

(Diseases of the tooth, jaw and oral cavity)

【責任者/担当者】

〔歯科口腔外科学〕 岸本 裕充 主任教授

【担当者】

〔歯科口腔外科学〕 野口 一馬 教授、吉川 恭平 講師、
上田 美帆 助教、徳本 佳奈 助教、
安川 陽子 非常勤講師、高岡 一樹 非常勤講師

【目的】

歯・口腔・顎・顔面並びに隣接組織に現れる先天性および後天性疾患について、その原因、症状、病理などを理解し、これら疾患の診断、治療法および予防法についても把握する。

【科目キーワード】

「オーラルマネジメント(oral management)」「口腔癌(oral cancer)」「顎骨壊死(osteonecrosis of the jaw)」「口腔顎顔面外科(oral and maxillofacial surgery)」

【到達目標(アウトカム)】

- 口腔が、鼻腔、咽頭、頸部に隣接して存在し、摂食、嚥下、発音、呼吸などの重要な機能を有する器官であることを、局所解剖、病態生理学、病理組織学などの基礎医学的知識に基づいて説明できる。
- う触、歯周疾患をはじめとし、口腔・顎・顔面領域の炎症、外傷、先天異常、嚢胞、腫瘍(良性・悪性)、顎関節疾患、顎変形症、唾液腺疾患、神経疾患、出血性素因、歯性病巣感染などの診断および治療法(手術学を含む)を理解し説明できる。
- 歯・顎・口腔領域疾患と全身疾患との関連性について説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・他者を理解し、互いの立場を尊重した人間関係を構築して、学内の人々や団体と関わることができる。
- ・人体構造・機能を理解したうえで、適切な医療を説明できる。
- ・各疾患の病因・病態を説明できる。
- ・基本的治療法を説明できる。
- ・医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなるチーム医療を理解している。
- ・患者の症状と身体所見、検査所見の重要性を理解している。

【概要ならびに履修方法】

- ・歯・顎・口腔領域に生じるさまざまな疾患と、それらの診断および治療方法について概説する。
- ・講義による履修形式となる。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

前日までに該当する部分の講義冊子に1時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

試験(筆記)95%、出席状況5%

【学生への助言】

特になし

【フィードバック方針】

試験問題について、適宜学生の質問に対して解説する。

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

講義冊子

【参考書】

「口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本」全国医学部附属病院歯科口腔外科科長
会議 監修(クインテッセンス出版)2017年

「口腔外科学(第4版)」白砂兼光、古郷幹彦 編(医歯薬出版)2020年

「図説口腔外科手術学」(上巻)大谷隆俊 著(医歯薬出版)1988年(※)

「図説口腔外科手術学」(中巻)大谷隆俊 著(医歯薬出版)1988年(※)

「図説口腔外科手術学」(下巻)大谷隆俊 著(医歯薬出版)1989年(※)

(※)絶版入手不可 西宮キャンパス図書館所蔵あり

「口腔内科学」尾崎登喜雄 編(飛鳥出版室)2008年

「成果の上がる口腔ケア」岸本裕充 編著(医学書院)2011年

「新編顎関節症(改訂版)」日本顎関節学会 編(永末書店)2018年

「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学(第2版)」道健一 編著(医歯薬出版)
2016年

【連絡先】

2号館 5階 歯科口腔外科学 医局